荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
これまでの経緯

資料１

（１）荒川流域エコネット地域づくりアクションプランの策定・推進経緯

平成29年度 推進協議会の設立

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会（以下「推進協議会」）の設立

※ＷＧ設置に向けた調整等

令和２年度 WGの設立・アクションプランの策定

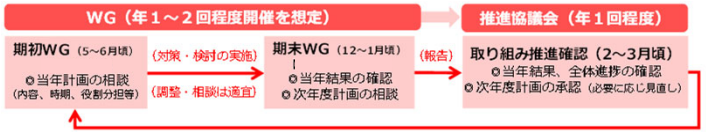
◎荒川流域エリア・ワーキングの設置（学識者、市民団体、自治体、河川管理者）
⇒計3回のワーキング会議においてアクションプランの内容・役割分担について意見交換を行った。

◎第2回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会を開催
⇒推進協議会においてアクションプランの内容を確認・承認。今後の取り組み推進に向けて期待することについて意見交換を行った。

※ＷＧを継続してアクションプランに関する具体の取り組みを進める
（第2回推進協議会にてＷＧ継続のための「ＷＧ規約・委員名簿」の改定を承認）

令和３年度～ アクションプランの推進

◎ ＷＧを年2回程度（期初・期末）開催し、当年度・次年度のプラン実行計画案を相談しながら取組みを推進し、結果を協議会へ報告する。
◎ 協議会では、ＷＧからの報告事項を受け、アクションプランの進捗状況を確認する。また、必要に応じて、次年度以降の実行計画や体制の見直しなどを検討するなどし、取り組みの推進を図る。



◎第3回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会を開催
⇒令和3年度活動結果・協議会ロゴマーク・取組事例の報告や取り組みの進捗確認を実施。今後のアクションプラン推進のため、令和4年度計画と協議会名の英語表記が承認された。

◎第1回ＷＧ（令和3年7月2日）
◎第2回ＷＧ（令和3年1月14日）

◎第3回推進協議会(令和4年2月7日)
WEB会議形式にて開催

アクションプランの推進

Ecological
Network
Association in
Arakawa
（略称：ENAA）

◎推進協議会の英語表記及びロゴマーク（2種）等

※ 令和4年度以降のＷＧは、当年結果の確認・次年度計画の相談を、期末にまとめて1回実施するなど、効率化を図っていくことも想定する。

荒川流域における「エコネット地域づくり」の目標達成

（２）アクションプランの目指すもの

１）取り組みの目標

●コウノトリ、トキを指標とし、河川及び周辺地域における治水と調和した水辺環境の保全・再生によるエコロジカル・ネットワークの形成、また、それらを活用した地域振興・経済活性化を推進すること。

２）アクションプランの位置づけ

●本取り組み目標達成に向けて、今後10年で、地域関係者がそれぞれ、あるいは連携・協力して行っていこうとする取り組みについて、地域関係者による意見交換のうえとりまとめたもの。
●協議会関係者が、可能な範囲で、連携・協力・調整するなどして推進していくことを想定する。
●5年程度で取り組み状況を確認し、成果や課題を踏まえ、必要に応じて計画を見直しながら、推進していく。

（３）アクションプランの内容

１）生物の生息環境保全に関するプラン

プラン	取り組み内容(例)
（プラン①） 合同生きもの調査の実施	◎関係者各自で実施している水辺の調査を、連携・協力(相互参加や技術交流等)により盛り上げます。 ◎関東エコネットで公表されているコウノトリ採餌量調査の手引きを活用するなどし、各地域の河川・農地等における統一した手法による調査実施を支援します(調査体験会の運営補助や機材の貸出し等)。
（プラン②） ゴミ・外来種問題への対応	◎関係者各自で実施している清掃活動(プラスチックごみ対策など含め)や外来種駆除対策を、連携・協力(相互参加や技術交流等)により盛り上げます。 ◎清掃時等にも活用できる外来種駆除の手引きを作成・配布するなどし、各地域の河川・農地における外来種対策を支援します。
（プラン③） 環境学習・観察会の推進支援	◎関係者各自で実施している環境学習会や自然観察会を、連携・協力(相互参加や技術交流等)により盛り上げます。 ◎本プランで挙げた指標種・シンボル種の学習・観察会の実施を支援(開催の運営補助やテキストや機材の貸出し等)します。
（ベースとなる取り組み） これまでの活動継続	協議会関係者が、河川や農地、里山林、公園等でこれまでに実施してきた各種取り組みを、それぞれ、引き続き推進する。

２）地域振興・経済活性化に関するプラン

プラン	取り組み内容(例)
（プラン④） 各種広報の展開	◎関係者各自で実施している環境関連の催事や拠点等を、連携・協力(相互参加や技術交流、エリア共通カレンダーの整理等)により盛り上げます。 ◎荒川流域エコネット地域づくりの取り組みや、地域の活動・魅力に関する広報を推進(ロゴマークやPR資料の検討・作成、それらを活用した行事出展等)します。
（プラン⑤） エコツアーの推進支援	◎関係者各自で実施している観光振興の対策を、自然の恵みを活用して支援します。 (例：自然観察スポット、特産品(コウノトリのエサ資源にもなるドジョウ等)、サイクリング・ウォーキングマップ等の関連情報の収集・整理・発信、観光スポットの生態的な価値に関する情報提供、自治体同士の連携によるスタンプラリー、森林セラピー等)
（プラン⑥） 関係者間のネットワーク支援	◎さまざまな場所・機会において、個人や市民団体、企業、自治体等の地域関係者間の連携促進を図ります。 (例：流域情報の収集・整理・発信、交流会・発表会や人材紹介による地域関係者同士の連携・交流の促進、情報共有のためのSNS活用 等)
（ベースとなる取り組み） これまでの活動継続	協議会関係者がこれまでに実施してきた、環境に配慮した地域振興に関する各種取り組み(観光・商業・地域連携等)を、それぞれ、引き続き推進する。

推進協議会（WG）の取り組みとして関係者が連携・協力して進める

（４）ロードマップと役割分担

項目	方策	ロードマップ（2021年→ 2025年度 / 2026年→ 2030年度）	役割分担（イメージ）市民団体等	市民・自治体	県	河川管理者	研究者	事務局
関係者協議	荒川流域エコネット地域づくり推進協議会		◎	◎	◎	◎	◎	◎
アクションプランの推進	これまでの取り組みの継続		◎	◎	◎	◎	◎	○
	① 合同生きもの調査の実施		◎	◎	■	◎	■	○
	② ゴミ・外来種問題への対応		◎	◎	◎	◎	■	○
	③ 環境学習・観察会の推進支援		◎	◎	■	■	■	○
	④ 各種広報の展開		◎	◎	◎	◎	◎	◎
	⑤ エコツアーの推進支援		◎	◎	■	■	■	○
	⑥ 関係者間のネットワーク支援		■	■	■	■	■	◎

本年度　中間とりまとめ

2030年の目標年度に向けて、段階的に進め、2025年度に取り組み内容を振り返り(中間とりまとめ)、必要に応じて計画見直しを行い、荒川流域エリアのエコロジカル・ネットワークによる魅力的な地域づくりを進めていきます。

◎：実施主体、○：連絡調整、■：連携・協力

（５）推進協議会・エリアワーキング会議の開催経緯（主なご意見等）

①令和３年度 第１回 荒川流域エリア･ワーキング

令和3年7月2日（金）10：00～12：00／荒川上流河川事務所大会議室･Web会議 併用

●荒川流域にコウノトリ餌生物がどれだけ生息しているか、これから調査を行い、意識を高めていきたい。

●アレチウリやオオブタクサの駆除を実施している。どのようなやり方がいいか勉強しながら外来種対策を進めていきたい。

●単なるごみ問題ではなくプラごみによる海洋汚染やそれらを減らすことに結びつけていくとよい。

●鴻巣市にコウノトリ放鳥拠点が整備され、放鳥から数年後には荒川流域に戻ってくることが期待できる。コウノトリ採餌ポテンシャルの高い場所を整理しておくこと、採餌・繁殖の場づくりを進めていくことが重要である。

●埼玉県内の平野部を見ると、古い神社や城址等に古い巨木が残っており、営巣木となる可能性があるとすれば、その周辺に採餌環境を構築していくという視点もある。

●（協議会ロゴマークについて）なにか埼玉県らしさ・荒川流域らしさがあるとよい。

●協議会の正式な英語名は無いとみられる。全体会議の際に思いつけば良かったが、荒川流域からうまく提案できればと思う。正式な英語名があると海外へのアピールとなる。

②令和３年度 第２回 荒川流域エリア･ワーキング

令和４年 1月１４日（金）14:00～16:00／荒川上流河川事務所大会議室･Web会議 併用

●外来種問題は、捕食・被食の関係をどう制御するか、生態学的な視点で考えていくことが大切である。どこでどのような影響が生じているか、全体像を整理し、エコネットの取り組みとの関係性を分かりやすく示せるとよい。

●利根川から荒川にかけて水路が通っており、工夫すれば用水路などに魚類が遡上してくる可能性もある。釣り人などから「どこにどんな魚がいるか」を聞き取って整理するのもよいのではないか。

●植生が古くから残されている寺社・城跡などには、大型のクロマツなどが生育していることがある。そうした文化財として保存されている巨木も、コウノトリが繁殖場として利用する可能性があることから、分布データをコウノトリ定着ポテンシャルマップへ反映できるとよい。

●広報紙やHPで取り上げやすいよう、アクションプランの策定や、取り組み実施状況など、市民の皆さんに情報提供できる事項をとりまとめてもらえるとよい。

●今後の取り組み評価のため、さまざまな方面のデータを収集しておくことが重要であり、特に、エコロジカル・ネットワーク形成のもたらす経済的価値に関する評価は重要になると思われる。

③第3回 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

令和4年2月7日（月）14：00～16：00 ／ Web会議形式（Zoom）

●日本の流域治水・日本流のNBSを、もっと海外にアピールしていくべきであり、荒川エコネットには非常に重要な役割がある。ぜひ市・町でアピールしたり、海外発信も検討してほしい。

●情報収集だけではなく発信も重要であり、一般の方々がアクセスすれば簡単に我々の取り組み一つ一つが分かる形のものがあると、更に取り組みが広がっていくのではないかと思う。

●明秋・釜虎という旧河道は自然が残っている場所であり、何か活用できるのではないかと考えている。

●桶川市～北本市～鴻巣市と、中山道を歩いていらっしゃる方が多いため、ネットワークを作りながら、コウノトリもあわせて、この地域に訪れてもらえるような取り組みができるとよい。

●旧河川の再生や、自然学習センターとの連携、住民の参加連携の取り組みを進めてほしい。

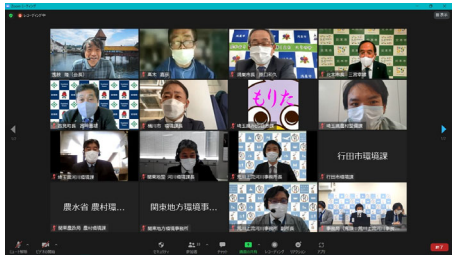
●ゴミの投棄問題や外来種対策について、全ての自治体で取り組むことによって自然環境の維持ができるため、近隣と意見交換をしながら今後もしっかり取り組んでいきたい。

●生物調査はあまり集中してできていない状況であるため、生物データの整理を行っていただければ、それを活用して市の計画等に反映させていきたい。

●生物多様性について、世間の関心の低さが問題となっており、普及啓発で意識を高めていければと思う。観察会などで実際に飼育体験したり、触れてみる体験があれば、お子さんたちの興味関心が高まるのではないか。

●流域共通マップが出来たら様々なところで公開していくのが良い。

●関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会では、従来の取り組みに加え、新たに流域治水やグリーンインフラの考え方を追加し、基本方針や計画の改訂を審議していきたい。



①令和４年度 第１回 荒川流域エリア･ワーキング

令和4年7月7日（木）9：30～11：30／荒川上流河川事務所 ３階 事業説明ホール･Web会議 併用

●生きもの調査体験会を季節毎に開催し、季節による生きものの違いを見せることができると面白いのではないか。

●ゴミ問題の関心を高めるため、集めたゴミを分類し、結果を発表する機会があるとよいのではないか。

●外来種のナガエツルノゲイトウが荒川流域にも侵入する恐れがあるため、啓発用パンフレットを作成するとよいのではないか。

●高校生くらいの学生にとって、外来種の生息範囲を長期に渡り調査することは面白い研究課題にもなるため、興味を持ってもらえるようにアドバイスしていくこともよい。

●埼玉県内の特定外来生物クビアカツヤカミキリ分布などのオープンデータを、環境教育などに活用していただけるとよい。

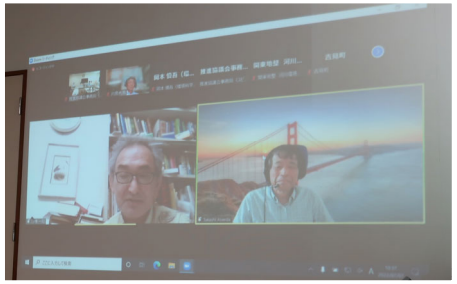
●自然再生に取り組む人たちや行政などの関係者が協力して取り組んでいることや、思いを伝えていくことも大切であるため、取り組みがみんなに理解してもらえるコンテンツがあるとよい。

●若い人を引き込むために重要なのは、世界的な話題にもなっているプラスチックとＳＤＧｓについてわかりやすく取り組みに盛り込んでいくことである。

●コウノトリがいる天空の里をうまく利用して、市民のみなさんと一緒に勉強できる場を設けられるとよい。

●アンケートで「生きたコウノトリをみたことがあるか」を調査し、数字が増加していけば理解者が増えたと評価することができるのではないか。

●アンケートは、配布先なども含めてプランを考え、有効性のあるものにするとよい。

●広報について、ターゲットは小学生と明確に絞ったうえで資料作成するのがよい。

●Google マップは利用価値があるため、うまく活用すれば地域活性化に繋がると期待できる。